

2023年度 地域懇談会報告

2023年度地域懇談会を県下23会場で、6月24日(土)～7月9日(日)までの土日に行いました。今年度は、コロナ禍による制限も解除され、第二部の食事を開催する地域が多数あり、よりフランクに交流ができる機会となりました。参加者は昨年度より増えて、現役保護者175名と教職員・ゲスト・保護者OB・生徒・卒業生を合わせてのべ268名となりました。保護者と教員、保護者と保護者がつながり、お互いの不安や考

えなどについて気楽に話ができることが地域懇談会の魅力だと実感します。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。一部地域では春の地域懇談会も考えています。次の機会にもぜひご参加ください。

保護者代表 PTA地域懇談会委員長 工藤 志保
教員担当者 久保田 彩 坂井 柚香

地域懇談会の感想(一部抜粋)

- ・卒業生のお話は、大変参考になりました。
- ・学校までは遠いので、近くで学校のお話ができるのはすごくありがたいです。
- ・ほかのお子さんの家庭での様子を聞いていると、どこも同じような感じなんだと思いました。

- ・地域懇談会で、つながりができたことはありがたいです。今回はほぼ、1年生の保護者でしたが上級学年の保護者の方とも、これから機会があればいろいろ聞きたいことも情報収集できそうでよい機会だなと思いました。
- ・とても良い機会で、先輩の親子さんの話が聞けて、子ども達どう向き合ってきたか、聞いてよかったです!
- ・違う地区に行かせていただき、新しい出会いができたし素敵なゲストと話しができて貴重な時間となりました。ありがとうございました。

2023年度 秋の「助成金拡充請願」活動について

今年度も、『オータムフェスティバル(県民文化大祭典)』を県下38会場で開催しております。各会場で県会議員の方にご登壇いただき、愛知県や市町村の「助成金拡充請願」についてご理解をいただいております。本校では、担当会場となっている13会場を中心に、生徒、保護者、卒業生とその保護者、本校教職員、また他私学関係者や市民とともに、準備・運営を進めております。

今年度は、2020年度実現した年収720万未満世帯までの無償化制度が維持され、経常費助成は生徒1人あたり約4,000円増額されました。一方で、年収720万

以上の世帯には依然として学費負担が残っています。今年の運動は、現制度の素晴らしい部分を守りながらも、さらなる助成金制度の拡充を目指すものとなっています。また、コロナによって子ども達が奪われてしまったさまざまな活動の場を新たに創り、つながりの中で成長を実感できる機会にしたいと考えています。

最後になりましたが、オータムフェス運営協力券の普及、これまでの会場へのご参加・運営など、多くの力添えをいただいておりますことに対し、厚く御礼申し上げます。

同朋学園 助成金推進協議会 武久 英人

Schedule [行事予定]

12月	7日 木	修学旅行第1団(～12/10)
	8日 金	修学旅行第2団(～12/11)
	9日 土	修学旅行第3団(～12/12)
	15日 金	1年生自主活動日
	19日 火	2年生自主活動日
	20日 水	3年生自主活動日
	22日 金	終業式

1月	9日 火	始業式
	18日 木	音楽科 第55回卒業演奏会
	24日 水	一般入試
	27日 土	PTA常任委員会、2年進路ガイダンス、1・2年学級懇談会、2年音楽科修学旅行説明会
2月	17日 土	卒業式
3月	1日 金	2年音楽科修学旅行(～3/8)
	19日 火	修了式

同朋
和敬

12

学校通信

Doho High School Community Press
Vol.231 6 DEC 2023

同朋高等学校

学校通信編集委員会 宇佐美・落合

名古屋市中村区稲葉地町7の1

TEL 052-411-1159

同朋 和敬

文化祭・部活特集

Doho High School Community Press

12

Vol.231

学校通信



朝 テレビのニュースで、ガザ地区にとどまる男性の、電話取材の声を聞いた。「My town was destroyed.」また、別の20代の青年は、親友がなくなったことを伝えていた。現在、「兵戈無用(ひょうがむよう)」という言葉が同朋大学のDoプラザの前に掲げられている。これは、仏の道を歩む人がある世の中は、人と人は互いに尊敬し合い、思いやる心にあふれ、兵士も武器も必要がないということを表す、『仏説無量寿経』の中に示される言葉である。「己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。」「賜ったいのち」を奪い合うことなく、皆が「共に生きる」世界になることを心から念じる。

同朋高等学校長 滝 敏行

2023年 文化祭

“任務:楽しいを 伝染させよ”

2023年度の文化祭は「任務!楽しいを伝染させよ」というスローガンのもと、各学年・部活動、有志で取り組みました。1年生“つくる～創造～部門”では、ジェットコースターや入場門など、初めての文化祭を手探りに取り組み、クラス全員の協力でひとつの製作物を完成させていました。2年生“伝える～ミュージアム～部門”では探求の授業が始まった学年として、深めた知識を来場者も学べるようなクイズ形式になっている企画が目立ちました。3年生“魅せる～舞台発表～部門”では、体育館・野外ステージともに熱のこもった演技やパフォーマンスで観るものに感動を与えていました。

また、今年度はオープニングを体育館で実施、外の模擬店を再開、4年ぶりの友人招待など、各学年の企画だけでないところでも大いに盛り上がりました。今年初めての挑戦である本部企画×生徒会花火企画は天候にも恵まれ、期待以上の参加・盛り上がりとなりました。3日目は3年生のアカデミー賞クラスの再演があり、2年生は来年に向けて全員鑑賞をしました。エンディングは急遽各HR教室での実施となり、とても悔やまれますが、受賞クラスの発表時には喜びの声が廊下へ響き渡りました。

ひとつの企画・作品を創るうえで、それまで話さなかったクラスメイトと一緒に作業をし、仲間の大切さを知ることができました。また、意外な一面を見て、時には悩み、時にはぶつかり、こういった今しかできない貴重な経験が人生の糧となり、今後の学校生活のさらなる充実につながってくれることを願います。

文化祭教員実行委員 山本 明里



2023年度文化祭 受賞クラス

文化祭アカデミー賞

★ 301 パフォーマンス部門

Voyage

★ 302 演劇部門

ビリギャル

★ 202 伝える ～ミュージアム～部門

わたしのからだ

★ 106 つくる ～創造～部門

スパイダーマン



出し思の高最の私

311 根岸 かのこ (名古屋市長豊正中学校出身)

今年の文化祭はとても思い出に残りました。私はグループのリーダーをしていました。普段リーダーをすることがないので、どんなことをやっていけばいいのかわからなかったり、自分も覚えなきゃいけないことがあったのにほかの子のことまで考えるのは大変でした。なんで私だけこんな思いをしなきゃいけないの、と思うことも何度かありました。友達や大人に相談したら、そんなに考えなくて大丈夫だよと言われました。そうしようと何回も思いましたが、やっぱり不安でいろいろ考えてしまいました。それが原因で勉強時間が減ったり、眠れなくなったりすることが多かったんです。この時はずっとしんどかったです。だけど自主練習を独自でしてくれた人も多く、本番までに仕上がる心配だった私の不安をよそに、本番数日前には全員で動きを合わせられるまでに完成度が高まっていました。残念ながらアカデミー賞を取ることができませんでした。が、振り付けを頑張って覚えてくれたメンバー、当日の急な変更にも対応してくれた子、忙しい中でも練習に参加してくれた人達のおかげで、とても楽しい文化祭になりました。私は今回の文化祭を通して、辛さも楽しさもさまざまな経験をすることができました。大勢で舞台上に立ってひとつのものをつくりあげるという、またとない貴重な機会に311の全員で臨むことができて、私の最高の思い出になりました。

文化祭の思い出

307 内山 心結 (清須市立清洲中学校出身)

今回の文化祭で印象に残っていることは、自分のクラスでやった演劇です。私は、「千と千尋の神隠し」で主役の千尋役を演じました。キャスト練習は、夏休みの頃からはじまり、自分が演じる場面のセリフを覚えて実際に演じたり、演出を担当していた方からアドバイスをもらったり、学校が始まってからも放課後残って練習したりとアカデミー賞をとるために毎日演技の練習をしました。本番の一週間前にコロナになって本番に間に合うかと不安になって思い悩んだりもしましたが、無事治って本番を迎えることができました。本番当日はトラブルが起こったり、本来あったシーンがなくなったりと、大変でした。でも、本番が一番いい演技ができたなと思いました。結果としてはアカデミー賞をとることができず、悔しい結果となりましたが、文化祭の演劇を通じて、普段しゃべったことがない子と協力して小道具などのセットを作って仲良くなったり、自分のクラスの演劇を良いものにしようと、クラスの団結力が上がったりといい思い出ができました。ですが、今でも再演してもう一回「千と千尋の神隠し」を演じたいです。悔しがっていた演出の子や、キャスト、裏方の子たちが、演劇に対して毎日頑張っていた姿を見て、アカデミー賞をとりたかったと思いましたし、完璧な形で再演できたら、という思いが心に残っています。





★ 301 パフォーマンス部門

VOYAGE

岩本 悠聖 (名古屋市立御田中学校出身)

僕達のクラスは、世界旅行をテーマとしたパフォーマンス「VOYAGE」を上演しました。

世界旅行の雰囲気を出す上で、最初に苦労したことは、大道具と背景です。

夏休み中から登空くん、裕佳くん、啓太くんを中心に製作していた背景の土台は、設計から自分達で考えました。特に、角材の大きさや長さのズレ、上手く固定できない所を修正していくのが大変でした。

背景は高森くんや美術部の子達を中心に本番直前まで描いてもらいました。クラスの子にも手伝ってもらいながら夜遅くまで残り、ダンボール16枚使った背景が完成しました。

パフォーマンス練習は、夏休み中から取り組んでいたのですが、夏休みが開けてもまだ決まっていない所や進んでいない所がありました。そこから世界旅行のテーマに沿ってひとつの作品にして行くのが大変でした。

本番まで時間が足りず焦りながらも、国ごとで話し合いながら何をするか決定し、練習をして、完成させていくのはとても楽しかったです。



★ 302 演劇部門

成長と感謝と喜び

安立 嬉子 (あま市立美和中学校出身)

私は今回の文化祭で演出を担当し、とても成長できました。

人前に立つのは得意ではなく、演劇も初めてで何もわからない中始まった夏休み。ほかのクラスがどんどん進んでいくことに焦り、不安でいっぱいでした。9月になってもみんなは焦りを感じていなさそうで、「みんなで作る物なのに、なんで私ばかり…、もう辞めたい」と何度も思いました。でも、みんなをやる気にさせようと声をかけて、みんなが動き出してくれた時は嬉しかったです。

それでも、毎日不安で必死で、周りが見えなくなっていました。そんな時にキャストの子達が自分で役を研究しているのを見て、「みんなも頑張ってくれているんだな」と思えました。実は人見知りで、ほかの子にどうやって話しかけようか最初は戸惑っていたのですが、準備が進むにつれ、そんなことを考えている時間も無く、素のままの自分をさらけ出していて、みんなと仲良くなっていました。

何度も練習を重ねて、完成が見えてきた本番一週間前。演技も最初とは比べものにならないくらい良くなって、音響・大・小道具も加わって、感動しました。

迎えた本番。ワンシーンごとに、舞台袖で泣きそうになったり泣いたりしていました。みんなの演技が過去一でよかったのです。結果、アカデミーも取れて、今までで一番嬉しかったです。



★ 202 伝える ～ミュージアム～部門

みんなで掴んだアカデミー賞

三浦 若菜 (清須市立清洲中学校出身)

54個の候補の中から何度も話し合いを重ね、クラスのテーマが「人体」に決まった。アカデミー賞を取ることをクラス目標に掲げ、企画班、制作班などのチーム分けを細かく行なった。教室感を消し、現実から離れた異空間を再現することを重要視し、完成度が高く、インパクトのあるものにしたいと思い、夏休みから制作を始めた。各班が綿密な予定を組み、それぞれが準備を進めることができた結果、作業を効率よく進めることができた。

また、「調べる」作業では、疑問に思う身体の不思議に加え、人体の解明されていない深い部分まで研究し、不明な点を医療従事者の方に取材をするなど、理看クラスならではのアイデアを組み込んだ。

採め事やアクシデントが起こったりもしたが、お互いに考え、協力して対処し合うことにより、波乱を乗り越え、内容・世界観ともに、完璧に作り上げることができた。

そして文化祭当日、想像以上に来場者が多く、楽しそうにしてくれている姿を見て、頑張ってきてよかったなと思った。クラスで団結してアカデミー賞が取ることができてとても嬉しかった。



★ 106 つくる ～創造～部門

最初で最後の文化祭を終えて

嶋田 涼華 (名古屋市立矢田中学校出身)

私にとって初めての文化祭は夏休みの準備から始まりました。設計班だった私は安全性とスリルを両立させるために、何度も設計図を書き直し、頭を悩ませる日々を送りました。二学期に入ってから、高さをつけるために必要な教壇と教卓の数を計算し、各クラスに借りることができるか聞いて回りました。知らない先輩、先生方に話しかけるのはとても緊張しました。

ジェットコースター作成も苦労することが多く、完成は無理なんじゃないかと思っていましたが、みんなで協力して、大成功させることができました。公開日当日も、シフトの人数が足りないことがあり、その場にいる人に声を掛け合ってトラブルを瞬時に解決させることができました。準備期間を経て、クラスの団結力、判断力が高まっている証拠だと思いました。

準備期間中、失敗して落ち込んだり、投げ出したいと思ったりする瞬間もありました。しかし、当日たくさんの方々が訪れ、その際に「凄い、クオリティが高い」という声を耳にするとその度に達成感を得ることができました。初めての賞をとれた時には、言葉に出ないくらいの喜びでした。終わってみれば、とてもよい経験になったと思います。



任務:楽しいを伝染させよ!

文化祭生徒実行委員長 **314 小林 李香** (名古屋市立福田中学校出身)

コロナ禍でできなかったことが少しずつできるようになった今年度の文化祭。4年越しの全校生徒でのOPはとても熱気があり素晴らしかったです。そして、なんとも盛り上がったのはやはり2日目の公開日でした。体育館での演劇、パフォーマンスはもちろんのこと、野外もたくさんの熱気が溢れていました。昨年度まではコロナ禍ということもあり縮小した形での開催でしたが今年からは友人招待も復活し、とても活気のある文化祭になったと思っています。そして、本部企画主催の屋台と野外ステージ、生徒会企画の花火。たくさん参加してもらえ、どの企画也大盛り上がりで、とてもやりがいを感じました。

今年度の文化祭テーマは“任務:楽しいを伝染させよ!”でしたが達成できたでしょうか?楽しさは伝染しましたか?文化祭中の皆さんの素敵な笑顔を見ている限り、多くの生徒が達成できていたのではないかと思います。こうして無事に文化祭を終えることができたのも生徒の皆さんが支えてくださったからだと思っています。本当にありがとうございました!!



文化祭 生徒会企画花火を終えて

生徒会副会長 **201 栗本 悠羽** (名古屋市立筑瀬中学校出身)

まず、花火の企画ができて良かったです。花火の企画では考えられないことばかりで大変でした。例えば、安全への配慮です。花火を打ち上げることにより花火が与える被害がどんなものか、人がたくさん集まって体調悪くなってしまったらどうするか、河川敷でやる場合、向かう途中の交通安全はどうするかなど、多くのことを考えました。また、花火だからこそ考えなければならない、花火の配置の仕方、火をつける順番を考え、火をつける人がみんな把握してなければならないことが企画を考える中で一番大変でした。こんなに大変で準備に時間をかけたことや、当日参加してくれた人がたくさんいたこと、すごかったという声が聞けたことで、大きな達成感を味わうことができました。ありがとうございます。

しかし、「花火師さんによる本格的な打ち上げ花火をあげること」ができなかったことが唯一の心残りです。来年の文化祭では2号玉の花火を打ち上げたいです。幸いなことに花火師さんとの連絡や、いつ、どこで打ち上げるかの計画は今年の夏休みにやり始めています。あとは、協力してくれる人を集め、資金を集め、役所の手続きが必要です。まだまだ大きな壁はありますが、今年の経験を活かしていきたいです。

PTAバザー報告

9月23日(土)一般公開日にPTA各専門委員会に加え、同朋友の会(卒業生の保護者の会)、同窓会によるバザーを無事に実施することができました。

4年ぶりに飲食物の提供が可能となり、PTA事業委員会は焼きそば、PTA文化委員会は喫茶コーナー(レモネードなどの飲料および専門学校とコラボしてのお菓子)、PTA地域懇委員会からは唐揚げを提供していただきました。バザー当日はまだまだ残暑も厳しかったのですが、本校生徒や多くの来場者で賑わい、早い時間に完売したのもありました。

4年ぶりの飲食物の提供ということで、保護者OBの方より、準備・運営についてのアドバイスをいただいたりしながら当日を迎えました。また物品バザー・標準服リユースを行ったPTA生活指導委員会へは、多くの保護者の方が物品提供協力のお願いに応えて、品物をご提供いただいたお陰で当日を迎えることができました。物品をご提供

いただいた保護者の皆様には感謝いたします。

収益については専門委員会合計で26万6千934円となりました。この収益金につきましては今年も生徒の学校生活に必要な備品購入等に使用させていただく予定です。その用途が決まり次第、保護者の皆様にお知らせいたします。

そして文化祭バザー終了後、本校の会議室にPTA役員・常任委員の皆さんにお集まりいただき、「バザー報告会」を開催しました。各委員会からはバザーの売り上げや、当日のブースの様子が報告されました。

コロナ禍で途絶えかけた活気でしたが、皆様のおかげで、以前のような活気や賑わいを取り戻すことができました。PTAの役員、常任委員の皆様にはバザーの準備から当日の運営、後片付けまでご協力いただき、本当にありがとうございました。

総務部長 林 雄二



Club&Award News

生徒の活躍 (2023年6月5日～9月24日)

■柔道部

令和5年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 愛知県予選
女子52kg級 第2位 白根 小雪(301)
女子70kg級 第3位 山本 愛佳(208)
女子78kg超級 優勝 岡田 彩花(312) ⇒ 東海大会出場

令和5年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 東海地区予選会
女子78kg超級 優勝 岡田 彩花(312) ⇒ 全国大会出場

燃ゆる感動かごしま国体2023

愛知県代表(補欠) 白根 小雪(301)

■陸上競技部

令和5年度名古屋南北支部学年別陸上競技大会
女子ジュニアハンマー投げ(4.000kg)
第5位 岩井 菜花(102)
第6位 安井 望翔(102)

令和5年度愛知県私学祭体育大会
高校女子ハンマー投げ(4.000kg)
第4位 丹羽 奏帆(204)

令和5年度愛知県高等学校新人陸上競技大会 名南支部予選会
女子ハンマー投げ(4.000kg)
第2位 丹羽 奏帆(204) ⇒ 県大会出場
男子ハンマー投げ(6.000kg)
第6位 稲垣 瑛雅(102)

令和5年度愛知県高等学校新人陸上競技大会
女子ハンマー投げ(4.000kg)
第5位 丹羽 奏帆(204) ⇒ 東海大会出場

■男子サッカー部

第20回東三河サッカーフェスティバル U-17カップ戦部門 準優勝

中部電力パワーグリッド 第65回なごや市民スポーツ祭
高等学校の部 第3位

■ラグビー部

第77回愛知県高等学校総合体育大会 第3位

第19回全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会
選手選考 水野 竜之介(210)

燃ゆる感動かごしま国体2023
愛知県代表選手選考 神取 晃太(313)

第44回東海ブロック大会(ミニ国体)
優勝 ⇒ 燃ゆる感動かごしま国体2023出場

中部電力パワーグリッド 第65回なごや市民スポーツ祭
高等学校の部第 第3位

■女子蹴球部

第77回愛知県高等学校総合体育大会 第3位

第44回東海ブロック大会(ミニ国体)
愛知県代表選手選考 木村 百葉(111)

令和5年度愛知県高等学校女子サッカー大会 準優勝

■放送部

第70回NHK杯全国高校放送コンテスト
愛知県大会

創作テレビドラマ部門 最優秀賞
⇒ 全国大会 製作奨励賞(準決勝進出)
[僕を変えた二つの円柱形～僕と父さんと赤丸ボスト～]

■なぎなた競技

第70回東海高等学校総合体育大会
個人の部 第3位 宇佐美 空虹(305)

■美術部

第67回ウエサカ祭協賛作品展(絵画の部)
金賞 山形 来未(209)
銀賞 三浦 若菜(202)
銅賞 滝田 香織(213)
佳作 川島 夕奈(208)

■書道部

第67回ウエサカ祭協賛作品展(書道の部)
金賞 竹内 陽菜代(312)
銀賞 宮川 結菜(212)
銅賞 堀田 千裕(307)
佳作 本澤 一花(303)
岩城 南々帆(309)
加藤 悠太郎(311)
川浦 菜月(212)

■合唱部

第90回NHK全国学校音楽コンクール
愛知県コンクール高等学校の部予選 銀賞

■商業科

情報処理技術者試験・ITパスポート
合格 若原 結菜(313)

■音楽科

令和5年度安来節全国優勝大会
三段の部・唄部門 全国大会優勝
松永 悠里(112)

寛仁親王牌 第38回童謡こどもの歌コンクール
こども部門 グランプリ大会出場
藪田 美怜(214)



放送部

2年連続の“県大会で最優秀賞”!で全国大会出場!!

306 佐藤 羽琉 (春日井市立中部中学校出身)

今年度も、放送部は第70回NHK杯全国高校放送コンテストに出場し、昨年につづき県大会で“2年連続の最優秀賞”(第1位)を受賞、全国大会出場となりました。そして全国大会では第6位の“制作奨励賞”をいただきました。

このコンテストは全国の高校生がラジオ番組やテレビ番組を制作し、日頃の活動の成果を発表する大会です。賞を受賞した作品は『僕を変えた二つの円柱形』という創作テレビドラマ。内気な少年が円柱形の大きな影と出会い、そのことをきっかけに自分を変えようとする姿を描いた作品です。脚本から自分たちで考え「出会いがもつ可能性」をテーマに制作しました。合成技

術を使い二つの映像を合成させたり、アニメーションの制作や、少し遠い場所でのロケだったり、初めての挑戦がたくさんありました。何度か制作が進まなかったこともありましたが、その度に制作班の仲間と話し合い、解決策を見つける。簡単なことではなかったけど、とても楽しかったです。「苦しさ、難しさの中に楽しさがある!」そんなことを実感しました。

そしてその作品などを上映した、文化祭での『放送部・合唱部 合同発表会』では大勢の方に観にきていただき、ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。今後も、後輩たちに応援やご協力よろしくお願いします。



バドミントン部

213 森 悠人(部長) (名古屋市立一色中学校出身)

私の目標と理想の部活

僕は高校からバドミントンを始めました。バドミントンのことが右も左もわからない状態でした。いざ真面目にバドミントンをやってみると難しく、ラケットの握り方、振り方から教わりました。競技を始めて約1年と半年が経ちましたが課題がまだまだ多く、ほとんどが課題と言っても過言ではありません。経験者に試合を挑むと負けてしまうことの方が多いです。ですが大会で勝ち進んでいくためにはそんな経験者達にも勝たなければなりません。なので僕たちは強い人と多く

試合をして、部活が無い日でもランニングや素振りをして大会でよい成績が残せたらと思います。

バドミントンは一人で練習をしても強くなるには限界があります。つまり、より強くなるには練習する相手、教えてくれるコーチ・顧問の先生が必要不可欠です。このどちらかが欠けてしまうと上手くなっていかないと思っています。なのでバドミントンを楽しいと思える部活、忙しい中来てくださるコーチ・顧問の先生に感謝できる部活にしていきたいです。



書道部

文化祭を終えて

私たち書道部は、文化祭のテーマに合わせて、パフォーマンスで書く内容を一から部員みんなで考えるところから始まりました。そしていよいよ書く練習が始まると、私は去年の文化祭ではパフォーマンスのお手伝いだけだったので、初めてやることや1年経って忘れてしまっていたこともあり試行錯誤でした。実際にやってみないとわからないことも多くあって、何度も修正し、そのたびに修正箇所をしっかりと把握して動かないといけなかったが大変でした。また、私たち3年生はみんなをまとめる立場でしたが、私は全体をまとめることがあまり得意ではなかったので、部活動にきたら積極的に準備を始めるなど、自分にできることを見つけ行動することを心がけました。文化祭が近づくにつれ、自

307 堀田 千裕 (津島市立神守中学校出身)

分のクラスの準備も忙しくなる中、メンバーは授業後の練習に頻繁に参加してくれ、また先生方のアドバイスや支えもあって次第に団結力が高まっていき、まとまった作品になって自信ができました。

文化祭二日目、心配された天候にも恵まれ、大勢の人が見守る中、パフォーマンス本番が始まりました。少し緊張しましたが、用紙や道具の準備もスムーズにでき、パフォーマンス自体も今までで最高の出来映えでした。最後の文化祭で書道パフォーマンスという、とても貴重な経験をし、いい思い出となりました。



バスケットボール部女子

高校生活を捧げたもの

私は3年間の部活を終えて、最後までやりきることができてよかったなと思いました。

私たちの代は4人という少ない人数でした。ですが、4人という人数だったからこそいろいろなことを乗り越えることができたと思います。

先輩方が引退した後、私はキャプテンを任されました。中学生の頃もキャプテンをやっていましたが、その頃とは比べられないくらい高校でのキャプテンは大変でした。自分がチームをまとめなければならぬ。引っ張っていかなければいけない。そんなプレッシャーに何度も押し潰されそうになりました。練習や大会で自分の納得のいくプレーができず、何度も指摘されました。これ以上バスケを続けていいのかと悩み、何度も部活をやめようと思いました。そんな私にいつも声をかけてくれたのは、部活の仲間でした。チームメイトの「落ち着いて、いつも通りやれば大丈夫」という言葉にいつも支えられていました。最後までみんなと一緒にやりたいと思い、全員で一丸となり、強くプレーをし続けることができました。

303 工藤 凜恋 (名古屋市立志賀中学校出身)

たくさん悩んで、自分とぶつかって、嫌になる時もありました。悩みを乗り越えてきたからこそ今の自分があります。この3年間で得た経験を活かしてこれからも頑張りたいと思います。



職業教育技術顕彰を受領しました

愛知県には、職業資格の取得を通し、技術・技能の習熟、目的意識をもって充実した学校生活を送り、将来にわたり豊かな職業生活を営むことを目的とした技術顕彰制度があります。本校からも、日頃の学びの成果が実り、高度な資格を複数取得した商業科3年生に対し、愛知県知事より「職業教育技術顕

彰」が授与されました。顕彰が授与されたことに自信をもち、これからも学びに真摯に取り組んでもらいたいものです。
商業科主任 城所 幸子



愛知県職業教育技術顕彰受領者

東 楓華	小林 叶実	服部 美優	池田 励央	佐藤 利乃	藤田 麻緒
安藤 あかり	近藤 綾姫	林 由佳子	井上 奈菜	澤田 夏生	堀江 晴斗
井川 未結	櫻井 美緒	平尾 蒼也	内海 爽弥	高尾 陽	三宅 七海斗
池田 優太	柴田 晃佑	二村 煌輝	小川 優衣	竹林 琴羽	森 音葉
池山 充	清水 咲希	前田 遥名	小澤 健人	田中 歩未	森 さくら
石川 絢香	白尾 優衣	水野 桜子	小野寺 桃子	田中 唯楓	山ノ内 めいな
今井 結衣	高橋 はな	武藤 楓真	河合 萌来	知原 可恋	若原 結菜
上田 千菜美	竹内 陽菜代	森田 貴文	川原崎 彪	鶴田 咲夢	
植松 凌生	田中 珠那	森田 晴香	木全 乃彩	花田 実久	
大野 ひな子	中井 麻祐子	山之城 麗奈	黒木 唯花	羽瀧 豪	
小出 若菜	中西 大徒	青木 千愛里	児玉 詩葉	彦坂 伶那	
後藤 玲名	服部 杏南	安部 隼平	小林 香凛	日比野 良夢	
					以上 67名

平成中村座が同朋に来る!!

今を遡ること17年、2006年の9月24日から27日まで、同朋高校の体育館を芝居小屋に作り変えて、「名古屋平成中村座」が行われました。これは故十八代目中村勘三郎さん襲名披露全国巡業の一環で、中村姓発祥の地、中村区で興行を、ということで同朋高校に白羽の矢が立ちました。高校体育館で襲名披露興行を行ったのは勘三郎さんが初めてだったことに加え、多くの同朋高校の生徒、保護者、教職員も会場スタッフとして関わったことが、当時、大変話題になりました。
そして今年度の3月、「名古屋平成中村座」が同朋高校に戻っ

てきます!2024年が十八代目中村勘三郎さんの十三回忌にあたり、中村姓発祥の地で、また勘三郎さんがいい思い出としていた同朋高校で、ぜひ「名古屋平成中村座」を!と話が上がったのです。しかも、前回は4日間だったのが、今回は3月6日から18日までという長丁場!
ボランティアとして運営に携わってくれる人を募っています。めったにないこの機会、生徒の皆さん、保護者の皆さんも、ぜひ一生の思い出に!

体育館が歌舞伎小屋に!?



アンサンブル演奏会

■ もう一つの挑戦～アンサンブル演奏会

314 黒瀬 一葉 (名古屋市立筑瀬中出身)

7月19日、私たち3年生にとって最後の「アンサンブル演奏会」が日本特殊陶業市民会館ビレッジホールで行われました。今回ピアノ専攻の私たちは電子オルガンとのアンサンブルでサン＝サーンスの『動物の謝肉祭』という曲を演奏しました。曲ごとに全然雰囲気違って、動物を想像させるような表現があり演奏していてとても楽しかったです。
この演奏会で私はもう一つ、あることに挑戦しました。それは管楽器とのアンサンブルです。私自身、楽器の伴奏経験が少なかったのに、先生からお話をいただいた時はとても不安を感じました。また、自分の専門ではない管楽器はどのようにピ

アノを弾けば演奏しやすくなるのか全くわからなかったのに、試行錯誤を繰り返しながら取り組みました。中でも私が特に難しいと感じたのは音量のバランスです。ソロでピアノ演奏する時と違って、目立ちすぎず、それでいて控えすぎないような演奏を心がけました。結果的にピアノ同士のアンサンブルとは全く違った難しさや楽しさを感じられた、とてもいい機会になりました。
この演奏会を通して得た経験を今後の自分の音楽に取り入れて、より良い演奏につなげていきたいです。



合奏オーケストラ演奏会

■ 大切なことを学んだ～合唱・オーケストラ演奏会

314 杉本 蒼弥 (名古屋市立港明中出身)

私は、定期演奏会を通してたくさんのことを学びました。私が初めてヴァイオリンと出会ったのは高校1年の時でした。当時は変な音しか出ず、何度もマイナスな思いをしてきましたが、優しく根気強く指導してくださる先生のお言葉や、ごくたまに鳴る良い音を耳にしながら、少しずつでも弾ける音を増やしていこうという気持ちに変化していきました。その経験を通して、なかなかできないことも、諦めずにコツコツと努力し、少しずつでも成長していくことが大切だということを学びました。
また演奏会は、表舞台に立つ人だけでなく、譜面台や椅子の

設置、場ミリをする人や、緞帳を上げ下げするスイッチを押す人、照明を操作する人など、たくさんの裏方を担当する人がいるおかげでできあがっていることもよく学びました。
たった3年間という短い間でしたが、実にたくさんのことを経験できたと思います。決して1人では学べないことばかりだったので、音楽科に入って良かったと実感しています。これから先の人生にとっても大切なことを気づかせてくれた「音楽」にお礼を言いたいです。ありがとうございました。

